



学術集会・もうすぐ開催！

・**ライブ配信は10月22（土）23（日）、リアルタイム**ならではのライブ感をお楽しみください。
 ・**オンデマンド配信は11月27日まで申し込み可能**、お忙しい方でも参加しやすくなっております！

・2日目には市民公開シンポジウム
「知って！使って！ママがこころを元気にするコツ」
 が開催されます（参加無料）。子育て中のママやご家族・専門職の方などにもどうぞご周知ください！

👉 詳しい情報は <https://procomu.jp/pmh2022/index.html>

昔にまなび、未来につなぐ 母性のちから
～今、日本の母を支える～

会場 **オンライン**
(ライブ+オンデマンド)

大会長 **常盤 洋子**
新潟県立看護大学看護学部・大学院教授 (母性看護学・助産学)、群馬大学名誉教授

オンデマンド配信 2022年11月1日 (火) ～ 12月1日 (木)
通常参加申込期間 2022年9月21日 (水) ～ 11月27日 (日)

<連載企画> 私たちのまちのメンタルヘルスケア活動 ⑧

済生会横浜市東部病院の周産期メンタルヘルスケア

相川祐里（済生会横浜市東部病院・心理室課長）、辻野尚久（同・精神科部長）

済生会横浜市東部病院は恩賜財団という特徴から、生活保護受給、入院助産制度利用などの経済的困窮者を積極的に受け入れるという役割を持っています。更に当院は産科と精神科病棟を同一施設内に併設しているという特性上、精神疾患を合併している妊産婦が、近隣の一般産科病院やクリニックから紹介受診されることも多くあります。このような特徴をもつ症例を多く受け入れていることもあり、開院2年目の2009年より「ペアレンティング・サポートシステム」という院内・院外が多職種が連携し、様々な要因が重なり精神的不調をきたしやすい時期と言われている周産期の母やその家族を支える取り組みを始めました。2011年より病院公認の「ペアレンティング・サポート委員会」とし、精神疾患合併の妊産婦だけではなく、心理・社会的支援が必要な対象者全般に妊娠期から産後まで一貫した対応を行っています。委員会活動の目的は、妊娠期から子どもが生まれた後の生活をイメージし養育環境の整備をするなど、新しい家族がスムーズに形成されることをサポートすること。そして最終的には、医療がかかわれる期間内においては切れ目無く、家族が成長する過程に寄り添い、対象者が生活する地域へ、その見守る体制を引き継ぐことを目指しています。構成メンバーは、産婦人科、新生児科、精神科各診療科の医師と看護職、薬剤師、ソーシャルワーカー、公認心理師、事務職員です。2013年7月からは年2回、病院主催の地域連携会議を開催し、関係行政機関、地域クリニック、産後ケア事業を担う助産院の方々と集い、その時々の周産期メンタルヘルス関連のトピックスを提供し合い、ケースカンファレンスを通してお互いの困り感を伝え合うなど、院外連携促進と顔の見える関係づくりにも努めています（図）。

平成30年度の診療報酬改定で新設された「ハイリスク妊産婦連携指導料」の算定要件となっている各担当区役所とのカンファレンスも開始し、更に個別ケースカンファレンスも随時開催するなど地域との連携機会は年ごとに増えています。

2019年から新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、妊産婦やその支援者との交流が制限される時期もあったため、これまで院内での対面を基本としていた対応に加え、感染状況を鑑みよりアクセスしやすい支援方法の構築を目指し、ICT（情報通信技術）を活かした新しい形態を検討、構築、運用を開始しています。



企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 情報関連委員会

当学会では会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください。